



令和元年 5月 1日
府中市立府中第七小学校
校長 渡邊 和子

令和元年度 府中市立府中第七小学校 経営計画

はじめに

府中第七小学校は、昭和29年4月1日府中第五小学校北山分校として発足、翌30年4月1日府中第七小学校として独立開校して以来、今年で65年となります。

校章は、○開校当時、北山一帯が松の林に覆われていたこと。

○小鳥のさえずる松林の思い出を残したいこと。

○松のときわの緑が永遠の発展を願っていること。

○本校創立に尽くされた旧西府村村長、松村敬一郎氏の頭文字であることなどが由来と言われています。

これまでの学校運営にご尽力された皆様に敬意を表し、バトンを受け継ぎ、1年が経ちました。地域に愛される小学校、よき校風を誇りとして守り、更に発展させてまいりたいという思いは変わりません。

新しい学習指導要領が告示され、平成30年度から移行措置に入り、いよいよ令和2年度は完全実施となります。必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようになるのかを教育課程において明確にしなが、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという「社会に開かれた教育課程」を重視し、引き続き学校経営をすすめてまいります。

学校教育の使命は、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることです。

6年間を通して、子供たちがしっかり学び、健やかに育つ小学校にしていきます。さらに、武蔵台小学校、府中第七中学校との小中連携、一貫教育を推進してまいります。

1 目指す学校像

〈教育目標〉

「つよく」 丈夫な体と強い意志、責任をもって最後までやり遂げる

健やかな体の育成 ～しんの強い子～

「ただしく」 基礎学力を身に付け、真理と正義を愛し、主体的に考え判断し、すすんで創造的に行動する

確かな学力の向上 ～学び続ける子～

「あたたかく」 自他の人格を尊重し、豊かな心情をもって共に生きる

豊かな心の醸成 ～思いやりのある子～

〈七小の七つの宝〉

◎あいさつ上手 ◎聞き方上手 ◎発表上手

◎元気な歌声 ◎ルールに強い ◎素直 ◎優しい（年下の子に親切）

令和元年度の学校づくりのキャッチフレーズ

「地域協働・チーム七小」

「みんなは一人のために、一人はみんなのために」

～ One for all All for one ～

○教育内容

(1) 「つよく」健やかな体の育成～しんの強い子～

- ① 元気に外で遊べるようにする。
- ② 体力向上を目指した活動を計画し、実施する。
- ③ 何事にも最後まで頑張ることができるようにする。
- ④ 責任を負う活動や役割をもてるようにする。

(2) 「ただしく」確かな学力の向上～学び続ける子～

- ① 知識及び技能を身に付ける。
- ② 思考力、判断力、表現力を養う。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度を養う。

(3) 「あたたかく」豊かな心の醸成～思いやりのある子～

- ① 礼儀正しい挨拶がすすんでできるようにする。
- ② 感謝の気持ちを伝えられるようにする。
- ③ 互いの違いを認められるようにする。
- ④ 互いに助け合えるようにする。

(4) 道徳教育の充実

- ① 人権尊重の観点から、自他を大切にする心情を養う。
- ② 道徳科を要として、教育活動全体を通じて行う。
- ② 道徳科以外の授業の特質に応じて、適切な指導を行う。

〈目指す教職員像〉

「地域協働・チーム七小」として組織的に協働できる教職員

- (1) 教職員がそれぞれの持ち味を發揮し、創意とチャレンジの気概をもって活躍し、協働できる組織力の高い職場づくりをすすめる。
 - ・「子供のための教育」で一致できる教職員のチーム力を高める。
 - ・学年部、事務部を基底に合理的で効率性の高い適正な校務分掌組織に協働してあたり、業務をすすめる。
 - ・「学校経営支援予算を適宜、適切に100%有効活用し、支援員を配置する。
- (2) 「OJT・OFFJT」に取り組み、学び続ける。
 - ・社会人、組織人、教員または学校職員としての資質向上に努める。
 - ・人権感覚は「人権プログラムのチェックリスト」で定期的に確認する。
 - ・都や市の研究制度を活用し、今日的課題に取り組み、校内に還元する。
- (3) 教員は「分かる・できる」授業、「確かで豊かな学びのある」授業を実践する。
【目標：子供の自己評価80%以上。】
 - ・子供一人一人の成長を促す、魅力ある授業を実現する。
 - ・「授業、学習スタンダード」の継続、徹底を図る。
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。
 - ・昨年度から継続し、理科を中心とした校内研究、理科室整備等に取り組む。
 - ・授業観察時は授業実践の学び合いができる時間とし、事前に略案を配付する。
- ◎(4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。【目標：学校評価80%以上。】
 - ・「生活・交通・災害」安全教育の指導を計画的に実施する。
- (5) 教育相談体制を整え、推進する。
 - ・日頃から学級経営の充実を図り、集団の場面での指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、児童の発達を支援する。
 - ・特別支援コーディネーターを中心に校内委員会の充実を図る。
 - ・スクールカウンセラーとの連携の下、配慮を要する児童へ適切な指導を行う。
 - ・教職員の特別支援教育に対する理解や、「まなび」との連携を深める。
- ◎(6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。【目標：学校評価80%以上。】
 - ・PTA、スクール・コミュニティ協議会、おやじの会、青少対、町会等と連携しよりよい教育活動を推進する。(教育環境の充実、地域連携防災訓練、漢検)
 - ・交通安全ボランティアの方々とのふれあい給食の実施(1年生から3年生の教室)。3年以上活動をされている方への感謝状の贈呈(学校+PTAより)。
 - ・学校から地域の行事や市の事業等に積極的に参加する。
 - ・ホームページの定期発信。
 - ・学校評価アンケートの改善、充実。
 - ・外部評価による学校経営の改善。(学校評価委員会「第三者評価」及び学校監査)

(7) 法令遵守、服務規律の徹底。

- ・ 服務事故防止研修の充実。【目標：服務事故0の継続。】

◎ (8) 第七中・武蔵台小との小中連携、一貫教育を推進する。

- ・ 義務教育9年間の各教科・領域における「学び」と「育ち」のカリキュラム接続を含めた、継続的な指導を進める。【目標：学校評価80%以上。】

◎ (9) 働き方改革

- ・ 副校長等校務改善事業の活用を踏まえ、本分の業務の時間活用へ改善する。
【目標：週当たり在校時間60時間以上の教員を0】

2 中期的目標と方策

3年後

教育目標「つよく たくたく あたたく」

- 児童の自己肯定感を85%以上に高める。
- 挨拶のできる児童90%以上にする。
- 基礎・基本の学力の定着85%以上にする。
- 読書量、年間、学年×1000ページ以上、達成率85%以上にする。

小中連携 学校評価85%以上

- 七中学区の小中連携一貫教育の推進。「外国語・英語」の接続から、「保健体育」「音楽」と乗り入れがしやすい科目から広げる。
- 縦割り班活動の延長として、中学生が小学校に出向き「読み聞かせ」をする。

地域連携・協働 学校評価85%以上

- 地域と連携した防災訓練を定期的実施する。

5年後

教育目標「つよく たくたく あたたく」

- 児童の自己肯定感を90%以上に高める。
- あいさつのできる児童100%にする。
- 基礎・基本の学力の定着90%以上にする。
- 読書量、年間、学年×1000ページ以上、達成率90%以上にする。

小中連携 学校評価90%以上

- 七中学区の小中連携一貫教育の推進。「外国語・英語」の接続から、「保健体育」「音楽」「社会」「算数・数学」の乗入れ授業へと広げる。
- 縦割り班活動の延長として、中学生が小学校に出向き、全校縦割りで「読み聞かせ」をする。

地域連携・協働 学校評価90%以上

- 地域と連携した防災訓練を定期的実施する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

「つよく」

- ① 元気に外で遊べるようにする。
 - ・中休み、昼休みと誘い合って大勢で外遊びができるようにする。
- ② 元気な身体を育成する活動を計画し、実施する。
 - ・基本的な生活習慣を身に付ける。
 - ・年間を通して「パワフル7（セブン）」（体力づくり）をたてわり班で実施する。
 - ・1学期は「体力テスト週間」、2学期は「マラソン週間」、3学期は「なわとび週間」を実施する。
 - ・「ふちゅうロープチャレンジ」（長縄8の字連続とび）に参加する。
 - ・「オリンピック・パラリンピック教育」との関連を図る。
 - ・児童の発達段階に応じて給食の残菜ゼロを目指す。
 - ・小中連携を生かした「元気アップチャレンジデー」を実施し、生活習慣の見直しを図る。
- ③ 何事にも最後まで頑張ることができるようにする。
 - ・生活の場面、学習の場面で指導し、評価する。
 - 【目標：学校評価アンケート80%以上 自己評価80%以上】
- ④ 責任を負う活動や役割をもてるようにする。
 - ・班長、グループ長、団長、委員長等、リーダーを体験できるようにする。
 - 【目標：年間1回以上100%】
- ◎⑤ 自己肯定感をもつ。【目標：自己評価75%以上】
 - ・一人一人の子供の活躍する場面を設定し、どの子供も励ましや応援を受けられるようにする。

「ただしく」

- ① 知識及び技能を身に付ける。

問われていること「何を知っているか。何ができるか。」

 - ・「学習スタンダード」（授業規律）を徹底する。
 - ・基礎、基本の徹底、反復。「東京ベーシック・ドリル」を活用する。
 - 【目標：達成率 当該学年前の内容の取得80%】
 - ・既習の学習内容を活用し、問題解決の力を高める。
- ② 思考力、判断力、表現力を養う。

問われていること「知っていること、できることをどう使うか。」

 - ・単元学習の計画の中で、付けたい力、ねらいを明確にする。
 - ・子供自身が目的や必要性を意識し、見通しを立てたり振り返ったりする。

- ・言語活動を駆使した授業。「話し合い」や「発表」は目的ではなく、手段として捉え、主体的・対話的で深い学びのある授業を実践する。
- ・言葉で理解したり表現したりしながら、自分の思いや考えを広げ、深める。
- ・指導と評価の一体化。

◎③ 主体的に学習に取り組む態度を養う。

問われていること「どのように社会・世界と関わり、よりよい生き方にするか」

- ・自分で目標を立てられるようにする。(生活・学習・行事・その他)
- ・読書活動の推進。
【目標：読書量、年間、学年×1000ページ以上、達成率80%以上】
- ・毎月の詩の暗唱に取り組む。【目標：達成率100%】
- ・(「漢検」に挑戦。)

「あたたかく」

◎① 礼儀正しい挨拶をすすんでできるようにする。

- ・「生活スタンダード」を徹底し、特に挨拶がしっかりできるようにする。
- ・年間を通してあいさつ運動を実施し、たてわり班ごとにあいさつ担当を体験し、挨拶の大切さに気付くことができるようにする。(朝のあいさつ運動)
【目標：学校評価85%以上 自己評価85%以上】

② 感謝の気持ちを伝えられるようにする。

- ・学期末ごとに「ありがとうの木」の取組を実施する。3学期には、地域に広げる。

③ 互いの違いを認められるようにする。

- ・児童一人一人の良さを認め、伸ばす。
- ・言葉の使い方や態度について指導し、学級や学年、異学年の仲間と仲良く生活できるようにする。
- ・たてわり班活動を自分の役割を達成し楽しむことができるようにする。
【目標：学校評価85%以上 自己評価85%以上】

④ 互いに助け合えるようにする。

- ・困っている人がいたら、直ぐに助けられるように指導する。

「道徳教育の充実」

①道徳科を要として、教育活動全体を通じて行う。

- ・道徳の授業について、共通理解のもと実践し、指導と評価の一体化を図る。
- ・道徳授業地区公開講座を計画し、家庭、地域の方々、専門家の方の参加や協力を得て家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図る。
- ・教育活動全体の中で、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育て、全校で道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める。

②道徳科以外の授業の特質に応じて適切な指導を行う。

(2) 重点目標と方策

◆児童の重点目標

◎自己肯定感をもつ。75%以上に高める。

- ・今日のがんばりさん、今日の MVP 等、あらゆる場面で真面目に努力した子供が認められるようにする。
- ・児童のよいところ、頑張っているところを記録し、情報共有できる仕組みをつくり、学校中で共有する。
- ・児童の自己肯定感について定期的にアンケートを取り、実情をつかむ。

◎すすんで読書ができるようにする。学年×1000ページ以上。80%以上

- ・全校一斉の朝読書、年3回の読書週間。読書貯金、読書レストラン等、発達に合わせた読書カードの活用。共通認識、共通実践。

◎挨拶ができるようにする。85%以上。

- ・毎朝校長と縦割り班の子供たちが門に立ち、登校する児童にあいさつする。
- ・代表委員会と連携して縦割り班あいさつ運動に取り組む。
- ・府中第七中学校の生徒、教員と合同の朝のあいさつ運動を計画、実施する。
- ・児童の挨拶について定期的にアンケートを取り、実情をつかむ。

◆教職員の重点目標

◎児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。学校評価80%以上

- ・記録を基にした報告、連絡、相談の徹底。早期対応。
- ・危機管理体制のマニュアル化。保護者、地域への十分な情報周知に努める。
- ・環境整備、予防的安全指導の工夫及び改善に取り組む。

◎学校を保護者、地域に開き、連携する。学校評価80%以上

- ・PTA、スクール・コミュニティ協議会、おやじの会、青少対、町会等と連携しよりよい教育活動を推進する。(教育環境の充実、地域連携防災訓練、漢検)

◎働き方改革を推進する。週当たり在校時間60時間以上の教員を〇

- ・副校長等校務改善事業の活用を踏まえ、本分の業務の時間活用へ改善する。
- ・校務改善について随時取り組み、合理化、効率化を図る。夕会で毎月15日にチェックシートなどで振り返り、校務改善の進み具合を確認する。
- ・月に一度以上の定時退勤の推進。定時退勤日の自己申告の推進。

◎第七中・武蔵台小との小中連携、一貫教育を推進する。学校評価80%以上

- ・七中の英語教諭が七小、武蔵台小5、6年生の外国語科指導。
- ・七小の音楽教諭が七中の「合唱祭」の審査員、応援。
- ・七小の図工教諭が武蔵台小へ指導技術の共有。他教科に発展。
- ・七中生が七小の夏の補習の支援に参加。
- ・七中生が、ふれあい月間等のあいさつ運動の応援に参加。